

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 「自信を持ち前向きに生きる人」、「自立した人」、「社会に貢献できる人」を育成する学校

上記「めざす学校像」を実現し、健全で高潔な社会貢献できる生徒の育成をするために、以下の項目を中心に学校目標を定め、取組みを実施。

- 1 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成。——学習活動を基本に据え、自信に溢れ前向きに生きる人——
- 2 人とつながり自らを律する力を育成。——他者を思いやり、地域から信頼される強くて優しい人——
- 3 自己を確立し未来を切り開く力を育成。——充実した学校生活を実現して成長し、社会に役立つ人——
- 4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成。

## 2 中期的目標

## 1 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成 → 【確かな学力の育成】を旨とし、自ら伸びる力の育成とわかる授業の創造

(1) 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を目標に、「確かな学力」を育むため、創意工夫した特色ある教育活動に取り組む。

- ア 「わかる授業」の実践 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。「何を教えるか」(知識の質や量)「どのように学ぶか」(学びの質や深まり)を重視した学習・指導方法の改善を図り、「学ぶ楽しさ」を身につけさせ、進路獲得につなげる。授業に対する意識と意欲の向上を図る。  
※ALやICTを活用した授業を奨励し、より考えさせる授業を展開する。  
※学校教育自己診断において、3年後には「授業満足度」を70%以上とする。(H29は65%・H30は67%・H31は70%以上へ)
- イ 「学習評価」の工夫 評価の仕組みを見直し、生徒の資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。  
※学校教育自己診断において、3年後には「評価に対する肯定度」を90%以上とする。(H29は80%・H30は85%・H31は90%以上へ)
- ウ 「自信や達成感を持たず教育」の構築 勉強に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかり、留年の防止と中退者の減少にむすびつける。  
※学業成績による原級留置者数を減少させ、3年後には各学年5名以下とする。(H29は10人・H30は7人・H31は5人以下へ)  
※3年後には、中途退学生を3%以下に減らすとともに、入学してよかったと実感できる学校にする。(H29は30人・H30は25人・H31は20人以下へ)
- (2) キャリア教育の推進  
「平野キャリアスタンダード」の推進と改革 「総学の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。  
※現在約85%の進路決定率を可能な限り100%に近づける。(H29は85%・H30は90%・H31は95%以上へ)  
また4年制大学への進学者を40名以上とする。(H29は30人・H30は35人・H31は40人以上へ)

## 2 人とつながり自らを律する力を育成 → 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成し、地域から信頼される強くて優しい人間を育成

- (1) 学校行事やビオトープに地域の人たちを学校に招くことで、交流の機会を増やし、共同作業や学習の機会を通して他者を認める力や認められる喜びを育てる。
- ア 「地域とともに生徒を育てる」 ビオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。地域から認められることにより自尊感情を高め、生徒の自信の醸成を図る。
- イ 「ともに学びともに育つ」教育 「人間は人間関係の中でしか育たない」という理念の下、障がいのある生徒だけでなく全ての生徒に対し教育相談主担やSC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。
- (2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む
- ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。
- イ 「グローバル人材の育成」 文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。  
※韓国大成一高校との「スタディツアー」を更に発展させ、学ばせたいこと、旅行行程、交流の在り方について本校独自のプログラムを策定し実施する。

## 3 自己を確立し未来を切り開く力を育成 → 学校生活の充実と規律ある高校生活を保障し、社会に役立つ人間を育成

- (1) 部活動の活性化
- ア 「元気な学校づくり」 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。放課後に生徒の声が響き渡る学校にする。  
※3年後には、部活動の入部率を現在の30%から40%に引き上げる。(H29は35%・H30は38%・H31は40%以上へ)
- (2) 生徒会活動の更なる活性化により、学校行事の充実と生徒の自主活動を推進する。
- ア 「来てもらえる学校」「見に行きたい学校」に 地域への公開を原則に本校学校行事を企画し、保護者、地域の方々に来校し喜んでもらえるものを考え本校生徒の頑張りを見ていただく。地域との結びつきを強化し、地域の中における自分の在り方を考えさせ、自己の確立につなげる。
- イ 学校行事で「人を育てる」 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感してできるものにする。  
※学校教育自己診断において、3年後には「学校が楽しい」と答える生徒を80%以上とする。(H29は70%・H30は75%・H31は80%以上へ)
- (3) 規律ある高校生活の実現
- ア 「人間力」の育成 生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」を納得させ規律を整える。 ※3年後には、懲戒件数を20件以下に(H29は25件・H30は22件・H31は20件以下へ)、遅刻件数を3000件以下に(H29は3500件・H30は3200件・H31は3000件以下へ)、欠席件数を7000件以下(H29は8000件・H30は7500件・H31は7000件以下へ)にする。
- イ 「情報リテラシー」の育成 情報社会における正しい判断や望ましい態度、セキュリティの知識・技術及び健康への認識といった情報モラルの育成に努め、生徒が加害者にも被害者にもならないように、校内での携帯電話など、指導方針の周知の徹底や過度の依存を防止するための総合的な取組みを行う。

## 4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成

- (1) 社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。自分の学校という意識を持たせ、自ら考え自ら動く教師集団を創造。  
「頼りにされる校務力」の育成 校外研修で学んだ理論を校内で系統的・計画的に実践するなど、日常的なOJTの推進に努める。初任者等教職経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成を図る校内研修とOJTの充実、若手教員やミドルリーダーを育成。
- (2) 校務や学校運営組織を見直し、効果的な仕事の実践のための職場環境の再構築  
「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。
- (3) 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。  
「教職員の長時間勤務の縮減」 一斉退庁日の設定や部活動休養日の明確化など、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。  
※時間外労働時間において、3年後には20%以上削減とする。(H29は10%・H30は15%・H31は20%以上へ)

以上の中期的目標をベースに、生徒に自信や自己有用感、達成感を植え付け、生徒の生きる力を育み進学してよかったといえる学校を創り上げる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学年進行に伴い肯定的評価が増加する傾向がみられる</p> <p>・「学校であったことを家族と話す」という項目について肯定率高い(66%)。保護者が、子どものことに関心を持っていただいている。(保護者の項目「家庭で子どもの生き方や将来を話し合うことがある」肯定値89%)。保護者の回答率も<b>昨年度の41%から47%に増えた。</b></p>	<p>第1回(6月29日)</p> <p>4月から、新しい事業所に若い平野高校卒業生が入職した(中途採用)。利用者さんとの関わり方について「やさしい」印象。平野高校においては、「人間力」と「豊かな心」の育成を継続して行ってほしい。</p> <p>地域との連携を継続してほしい。書道部や軽音楽部のパフォーマンスを地域の行事で目にする嬉しくなり、応援したくなる。</p> <p>小中学校の様子。今、小学校低学年から、遅刻・欠席が多い児童がいる。背景には保護者の養育体制に問題が見える。そのまま、→高学年 →中学校 →高校と流れいく。また、「発達障がい」の子ども増加。対応を間違えると、「学級崩壊」招きかねない。「やさしい(インクルーシブ)授業づくり」が大切。</p> <p>第2回(10月18日)</p> <p>3年生は、生徒が前向きに授業を受けていた。先生からの問いかけの前に、自分で考えている子が多くみられ、感心した。学校行事を通じてリーダーシップを育んできたことが窺えた。クラスの雰囲気・人間関係が良いと感じた。今後、進路・卒業へ向けて頑張ってもらいたい。</p> <p>2年生は、生徒が元気であった。双方向の授業で、数学の難しい内容に、生徒が熱心に受けている姿勢がみえた。</p> <p>1年生は、落ち着いて授業を受けていた。欠席も少なかった。</p> <p>中学校でも同、苦言を呈せばそっぽを向く。先生に、ちょっとしたことで「ほめられ」高校に進学する。家庭も生活実態が苦しい状況のため、無関心になりやすい。先生方が、生徒のことを思いながら、試行錯誤され、指導していることが大切なことだと思う。</p> <p>第3回(1月31日)</p> <p>PTA活動の様子を見ても、参加者は特定の保護者に固定。全員PTAに加盟しているのに自覚がない。「(PTA役員から)連絡されたら困ります」という反応もある。子どものことに興味が無いのか。一方で保護者項目「家庭で子どもの生き方や将来を話し合うことがある」の肯定値は高い。矛盾を感じる。</p> <p>保護者の中には「子どもは自立しているから何も聞かなくて良い」という人もいる。</p> <p>高校生になったら、仕事をしている親が多くなる。保護者と先生が話せる機会が、もう少しあれば良いと思う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成</p>	<p>(1) 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を目標に、「確かな学力」を育むため、創意工夫した特色ある教育活動に取り組む。</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>(1) ア)「わかる授業」の実践・「相手を選ばない授業力」の獲得 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。「何を教えるか」(知識の質や量)「どのように学ぶか」(学びの質や深まり)を重視した学習・指導方法の改善を図り、「学ぶ楽しさ」を身につけさせ、進路獲得につなげる。授業に対する意識と意欲の向上を図る。 ・ALやICTを活用した授業を奨励し、より考えさせる授業を展開し、そのような授業を行う教員の割合を増やす。 ・習熟度別少人数展開授業の効果的な展開 ・生徒の学習時間の増加をめざす取り組みを実施。 ・自習会の実施・土曜講習の実施など、放課後や土曜日の有効的な利用(1年次後半から進学講習を実施) ・学習チューター・進学主担・学年主任・進路主担の連携を強化 ・授業アンケートの活用、教員相互の授業見学 ・授業改善のための校内研修を複数回実施 ・他校との授業交流及び中学校への出前授業の実施。 ・全教員による相互見学の発展</p> <p>イ)「学習評価」の工夫 評価の仕組みを見直し、生徒の資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。 ・すべての教科で評価の仕組みを見直す ・すべての教科で指導と評価の年間計画(シラバス)の作成</p> <p>ウ)「自信や達成感を持たず教育」の構築 勉強に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかり、留年の防止と中退者の減少にむすびつける。 ・成績不振者の指名補習・課題の「マスト提出指導」の学年実施 ・進学希望の生徒だけでなく、漢検・英検などの全員受験の実施と朝学習との連動方法を考える ・モジュール学習の発展的解消や変化</p> <p>(2) ア)「平野キャリアスタンダード」の推進と改革 「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。 ・1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る(活躍する卒業生や大人へのインタビューの企画・実施) ・中小企業家同友会との連携。生徒就労意識を育てる。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施</p> <p>・キャリア教育の再構築のための組織を編成 ・7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入 ・3年間の進路指導マップを全学年で共有し活用。(合格者登校/進路オリテ/進路説明会などの場面で活用) ・3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。</p> <p>・進路指導課と学年との連携した進学に向けての講習を実施し、学習チューター・学年主任・進路主担・進学主担・就職主担の連携を強化する。 ・自習室管理と自習の計画と運営 ・勉強合宿の企画 ・大学見学や大学施設での自習や講習会の企画</p> <p>・総合的な学習の時間を中心に、積極的に図書館を活用する方策を考える。(調べ学習など) ・年間最低1回でも各教科の授業の中で、図書館に足を運ぶ授業を企画し実施する。</p>	<p>(1) ア) 自己診断で「授業満足度」を65%以上(H28:60%)に、「教え方に工夫をしている」を80%(H28:71%)に( )内は前年度実績 ・習熟度別授業で受講者の2/3(H28:60%)以上の生徒の学力を向上させる ・学力生活実態調査により、学習時間を把握。1時間以上の家庭学習者を増やす。15%(H28:1年4月以外10%) ・進学講習参加者数を各学年30名以上に(H28:75名) ・授業交流及び中学校への出前授業の回数(H28:4回)</p> <p>イ)「評価に対する肯定度」を80%以上とする。</p> <p>ウ) 転退学率を5%以下(H28:6%)に、また学業成績による各学年の留年生徒数を10名以下(H28:13名)にする ・追認指導の合格率75%(H28:68%)・参加率95%(H28:90%)を上げる。 ・英検4級合格者を25%(H28:17%) ・全単位修得卒業率を93%以上に(H28:90%)</p> <p>(2) ア) 進路決定率を90%以上(H28:88%)に、学校斡旋による就職率を100%(H28:100%)にする ・1次就職試験決定率85%(H28:83%)に ・4年制大学への進学者を30名以上(H28:29名)に増やす ・4年制大学・短大への進学者を50名以上(H28:44名)に増やす ・4年制短大進学・専門学校進学・就職の割合に変化 4年制短大進学40%で+20%(H28:23%) 専門学校進学20%で-10%(H28:28%) 就職35%(H28:38%) その他5%で-10%(H28:12%) ・図書館を利用しない生徒を-10%減少に(H28:62%)</p>	<p>ア) 自己診断で「学校の授業はわかりやすい」が62%、「教え方に工夫をしている」が72%とわずかながらも前年度を上回っている(○) ・習熟度別授業での学力向上60%(○) ・学力生活実態調査により1時間以上の家庭学習者12.4%(○) ・進学者講習参加者 計34人(△) ・授業交流及び中学校へ出前授業5回(◎)</p> <p>イ) 学校教育自己診断で「成績は、テストの得点だけでなく、努力や授業態度などを含めて総合的に評価されている」82%(◎)</p> <p>ウ) 転退学率5.2%(1月30日現在)(△) ・追認定の合格率70%(△) ・参加率96%(◎) ・英検4級合格率22.7%(◎) ・全単位修得卒業率95.5%(◎)</p> <p>(2) ア) 進路決定率87.2%(◎)(前年同時期84.3%) ・1次決定率72.1%(△) 本人希望を優先させたことが大きい。 ・4年制大学30人(現在3人受験中)(◎) ・4年制大学・短大進学者39人(△) ・図書館を利用したことがない54%(△)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 人とつながり自らを律する力を育成</p>	<p>(1) 地域の人たちを学校に招き、交流の機会を増やし、共同作業や学習の機会を通して他者を認める力や認められる喜びを育てる。</p> <p>(2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p>	<p>(1) ア) <b>「地域とともに生徒を育てる」</b> ビオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。 ・地域清掃活動の実施 ・近隣小中学校との交流 ・授業での福祉施設交流 ・老人会などとの地域連携 ・ひまわりプロジェクト ・幼稚園や地域住民との交流 ・小中学生との部活動交流 ・地域のフェスタへの参加 ・地域住民を招いての交流の検討（学校見学やビオトープ交流など） ・ボランティア活動の充実</p> <p>イ) <b>「ともに学びともに育つ」教育</b> 障がいのある生徒だけでなく全ての生徒に対し教育相談主担やSC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。 ・SCや支援教育コーディネーターや学校生活支援カードを有効に活用 ・教育サポート室会議や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。 ・支援学校や自立支援推進校、外部機関との連携を強化、協力を得て支援を実施。</p> <p>(2) ア) <b>「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ</b> 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。 ・3年間を見据えた人権教育マップの作成。</p> <p>イ) <b>「グローバル人材の育成」</b> 文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。 ・姉妹校である大成一高校との交流をさらに発展する。語学・異文化体験研修の色合いをプラス ・韓国英語村体験を企画 ・人間福祉コースの参加など、訪日交流参加者を増やす方策を考える。 ・訪韓交流のPRや広報につとめ、参加者をさらに増やす。 ・交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 ・大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、海外からの修学旅行等を受け入れも検討する。 ・年度にもう1回、別の国際交流のイベントの企画</p>	<p>(1) ア) 交流への外部からの参加者や参加生徒からの「よかった」との感想を90%(H28:80%)</p> <p>イ) ・教育相談委員会開催回数(H28:20) ・修学支援会議開催回数(H28:10) ・課題を抱える生徒の卒業進級を100%に限りなく近づける。(H28:7/10)</p> <p>(2) ア) 「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」を75%以上(H28:73%)に</p> <p>イ) 大成一高校来校時の交流参加生徒60名以上(H28:約50名) ・人間福祉コース訪日交流参加者15名(H28:5名) ・訪韓交流参加者15名(13名)</p>	<p>(1) ア) 「よかった」の感想83%(△)</p> <p>イ) ・教育相談委員会開催回数21回(○) ・修学支援委員会開催回数4回(△) ・課題のある生徒の卒業進級率87.6%(◎)</p> <p>(2) ア) 「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」73%(△)</p> <p>イ) 大成一高校来校時の交流参加生徒40人(△) ・訪韓交流参加者10人ただし希望者は18人(◎)(予算の関係で参加靴を絞ることとなった。) ・フィリピンでの支援を行っているPioneer Kids Japanの講演会を実施し、フィリピン側の事務局の方が来校し、セブ島での活動を報告してもらう(◎)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 自己を確立し未来を切り開く力を育成</p>	<p>(1) 部活動活性化</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化による学校行事の充実と生徒の自主活動の支援</p>	<p>(1) <b>「元気な学校づくり」</b> 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える ・今までにない、新入生へのアプローチの工夫(部活動全入など)、働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)や方法の工夫。 ・平野カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施 ・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成 ・部活動で頑張る生徒や成果の紹介</p> <p>(2) ア) <b>「来てもらえる学校」「見に行きたい学校」</b>に 地域への公開を原則に本校学校行事を企画し、保護者、地域の方々に来校し喜んでもらえるものを考え本校生徒の頑張りを見ていただく。 ・保護者の学校への関心を高める ・文化祭の開催形態を発展的に変化工夫</p>	<p>(1) ア) 部活動入部率を40%(H28:35%)に ・「学校には授業以外に楽しみにしている活動がある。」を60%(H28:55%) ・クラブ体験行事の回数を増やす(H28:2日)</p> <p>(2) ア) ・体育祭に500名(H28:480)、文化祭に750名(H28:725) ・学校教育自己診断アンケートの回収率を50%に(H28:41%) ・「体育祭や文化祭など、学校行事に参加したことがある。」65%(H28:60%)</p>	<p>(1) ア) 部活動加入率12月現在29.7%昨年同時期の26.1%とより3%向上(◎) 水泳部近畿大会出場、書道部全国大会出展決定など活動内容の成果が出ている。 ・クラブ体験行事を6日実施(◎) 非常に多くに時間を割いたが劇的な増加にはつらがないので次年度は回数を見直す。</p> <p>(2) ア) ・文化祭615人(△)雨天にも関わらず昨年度比-15%であるが、中学生が111人と昨年度より21人増えた。体育祭は516人(◎) ・学校教育自己診断の回収率89.6%(◎) ・「体育祭や文化祭など、学校行事に参加したことがある。」55%(△)文化祭の保護者参加者が30%減少していることが大きい。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 自己を確立し未来を切り開く力を育成</p>	<p>(2) 生徒会活動の活性化による学校行事の充実と生徒の自主活動の支援</p> <p>(3) 規律ある高校生活の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と話をする機会を増やす</li> </ul> <p>イ) <b>学校行事で「人を育てる」</b> 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら企画・立案・運営できる設定を考え、「達成感・成就感」を体感できるものにする。</li> <li>・学校行事への生徒の取り組みに工夫</li> <li>・球技大会や合唱大会などの新たな全校イベントの企画</li> </ul> <p>(3) ア) <b>「人間力」の育成</b> 厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解に努め、家庭連絡や生徒への声かけを心がける</li> <li>・厳しく鍛えることで、自ら規律を守ることでできる生徒指導を展開</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・不登校・長欠生徒への丁寧な働きかけ</li> </ul> <p>イ) <b>「情報リテラシー」の育成</b> 情報社会における正しい判断や望ましい態度、セキュリティの知識・技術及び健康への認識といった情報モラルの育成に努め、生徒が加害者にも被害者にもならないように、校内での携帯電話など、指導方針の周知の徹底や過度の依存を防止するための総合的な取組みを行う。</p> <p>・SNSなどインターネットの使用についての講習などを企画</p>	<p>保護者面談 10日 (H28:8) 土曜日の来校機会 15日 (H28:12)</p> <p>イ) 自己診断で「学校が楽しい」と答える生徒を70%以上 (H28:61%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事に積極的に参加している」85% (H28:79%)</li> <li>・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」75% (H28:70%)</li> <li>・「文化祭や体育祭や学年行事などに積極的に取り組むことができる」80% (H28:77%)</li> </ul> <p>(3) ア) 自己診断で生徒指導への肯定的な回答を75%以上 (H28:70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は家庭への連絡をきめ細かくおこなっている」85% (80%)</li> <li>・懲戒件数を20件に (H28:度25件)</li> <li>・遅刻件数・欠席件数 -10% (H28:3726回・8775回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者面談 10日 (◎)</li> <li>・土曜日来校機会 8日 (△)</li> </ul> <p>土曜日の来校機会は教職員の働き方改革を踏まえて検討が必要</p> <p>イ 自己診断で「学校が楽しい」と答える生徒60% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事に積極的に参加している」75% (△)</li> <li>・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」72% (○)</li> </ul> <p>(3) ア 自己診断で生徒指導への肯定的な回答72% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は家庭への連絡をきめ細かくおこなっている」79% (△)</li> <li>・懲戒件数 39件 (△)</li> <li>・遅刻件数 約400件減 (◎)</li> <li>・欠席件数 約1600件増 (△)</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成</p>	<p>(1) 社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。自分の学校という意識を持たせ、自ら考え自ら動く教師集団を創造。</p> <p>(2) 校務や学校運営組織を見直し、効果的な仕事の実践のための職場環境の再構築</p> <p>(3) 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。</p>	<p>(1) <b>「頼りにされる校務力」の育成</b> 校外研修で学んだ理論を校内で系統的・計画的に実践するなど、日常的なOJTの推進に努める。初任者等教職経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成を図る校内研修とOJTの充実、若手教員やミドルリーダーを育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターチームによる初任者への研修や支援を行う。</li> <li>・生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修</li> <li>・先進校視察や授業交流の実施</li> <li>・分掌・学年マネジメント表の作成と運用</li> <li>・提案型の学校運営、グループワークなどで意見提示ができる機会の設定 (学校経営推進費の校内コンペ)</li> <li>・経験の少ない教職員の意見交換の場を設定 「どんな学校にしたいのか」「そのために何ができるか、何をしなければならないか」を主体的に考えていく</li> </ul> <p>(2) <b>校務や学校運営組織の見直し(7割継続3割改革)「スクラップアンドビルド」の実践</b> 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来構想委員会」を中心とした機動力のある組織運営</li> <li>・会議の減少化や短縮化への工夫</li> <li>・教員研修の縮小化への工夫</li> <li>・40周年行事を見通した校舎内施設の利用方法考察</li> <li>・分掌改編にともなう諸問題の解決。工夫。生徒指導課の3Gの仕事の役割分担への工夫</li> <li>・生徒会Gの抜本的な仕事改革 (文化祭実行委設置など)</li> <li>・学年生指の担任兼務化・廊下当番の廃止</li> <li>・総務広報課による広報活動の充実 広報Gの仕事の役割分担への工夫</li> </ul> <p>(3) <b>「教職員の長時間勤務の縮減」</b> 一斉退庁日の設定や部活動休養日の明確化など、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p>	<p>(1) 自己診断で「先生の頑張り」への生徒の回答を75% (H28 71%) 以上に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターチーム研修実施回数 5回 (H28:3回)</li> <li>・教職員研修の実施回数 8回 (H28:12回)</li> <li>・先進校視察実施回数 3回 (H28:5回)</li> <li>・学校の教育活動について、教職員でよく話し合っているを85% (H28:79%)に</li> </ul> <p>(2) ・スクラップを3項目つくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしているを75% (H28:65%)に</li> </ul> <p>時間外労働時間において10%以上削減する。</p>	<p>(1) 「先生の頑張りへの回答」75.7% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターチーム研修実施回数2回 (△)</li> <li>・教職員研修の実施回数8回 (◎)</li> <li>・先進校視察2回 (○)</li> <li>・学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている73% (△)</li> </ul> <p>(2) ・スクラップできたこと2部4課体制を4課体制にした。以上1項目 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている70% (△)</li> </ul> <p>時間外労働を0.3%増 (△) 4月～12月 昨年度 20211時間 今年度 20269時間</p>